



糸魚川の 未来を担う



地域で活躍する 認定看護師

新潟県では、慢性的に医師や看護師が不足しています。このような状況に対応するため、看護師の確保、高い専門性をもった職員の育成事業が県全体で積極的に取り組まれています。

今回、糸魚川総合病院 山岸病院長と同病院で活動している認定看護師*1が、「糸魚川の未来を担う認定看護師」をテーマに座談会を行いました。

*1 認定看護師…看護師として5年以上の実践経験を持ち、日本看護協会が定める600時間以上の認定看護師教育を修め、認定審査に合格することで取得できる資格。よりよい看護を提供できるよう、「感染管理」など21の認定看護分野ごとの専門性を発揮しながら、「実践・指導・相談」を行い、看護の質の向上に努めている。

「自分のふがいなさを感じた…」

病院長 認定看護師になったきっかけを教えてください。

渡辺 内科病棟で勤務していたときに、インフルエンザの集団発生や薬剤耐性菌が検出された患者さんの対策に苦慮したこと、他のスタッフから対応を問われたときに、すぐに答えが出せない自分のふがいなさやもどかしさを感じた。自分たちの対策次第で感染を封じ込めることができる反面、拡大させてしまう怖さなどを経験し、対策の根拠からもっと学びを深めたいと思った。

高瀬 以前働いていた病院で、皮膚・排泄ケア認定看護師と一緒に勤務していたことがあった。一般スタッフが勉強して時間をかけ処置をしても、よくなかなかたり悪化していく現場を見て、自分自身悩み、ふがいなさを感じていた。しかし、認定看護師が高度でスピーディーな処置を行った結果、確実に治癒に向かった場面を目の当たりにし、認定看護師は憧れとなり、そして目標となった。患者さんを助けたいという一心で認定看護師の資格を取得した。

奥村 地域で広く活動できる看護師になりたいと思ったときに、何か専門資格を取ったほうがより役に立てるのではないかと考えた。以前から興味を持って独学で取り組んでいた食支援に関する資格なら、老若男女、地域の様々な人に関われる職種と思い資格を取得した。



「認定看護師 3人のコラボ、地域への貢献」

病院長 認定看護師として地域での活動はどのように行っていますか。

高瀬 当院では、訪問看護ステーションが併設されているので、長期的なストーマ*2ケアを支えるうえで連携のとりやすさは大きなメリットだと考えている。ストーマケア外来では、オストメイト(人工肛門保有者)の方の退院後のスキンケア、日常生活のアドバイスなどを行っているが、院外の訪問看護ステーションや介護施設から相談をいただく機会も多く、地域の方とのつながる場があることは強みでもある。また2人の認定看護師とコラボレーションして活動、相談することができる。

渡辺 新型コロナウイルスの感染拡大を経験し、医療のひっ迫を感じた。感染対策は、病院だけでなく地域全体で取り組む必要性があると強く実感した。高齢者施設や保育所への感染対策の研修など、行政と連携した活動を引き続き行っていきたいと思う。また3人のコラボレーションは、考えればいろいろできているし、相談にものってもらっている。

*2 ストーマ…腸や尿管をお腹の外に出して作った人工肛門・人工膀胱のこと